### スパークス・ 企業価値創造日本株ファンド



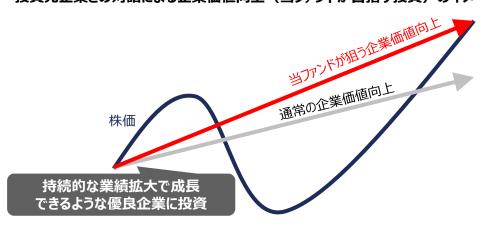
スパークス・アセット・マネジメント株式会社

## 進捗を見せる企業との対話

### **賃価値向上のための対話と組入銘柄の対話状況**

当ファンドは、徹底した企業調査により、潜在価値の高い企業を選別し、対話を通じて投資先企業のより 良い経営判断を後押しすることで、「対話による企業価値の顕在化」の実現を目指します。

投資先企業との対話による企業価値向上(当ファンドが目指す投資)のイメージ



【対話段階】

課題提起段階

議論進展段階

### **MARUWA (5344)**

#### 同社の強み

EVの需要拡大で高収益かつ 高成長が期待されるセラミック 製品を製造



対話段階:議論進展段階 対話論点: IRの充実

資本コストを意識した経営への転換

#### これまでの対話状況

- スパークスより、IR体制の改善などを期待するレターを繰 り返し送付
- 2023年5月、高収益ビジネス加速のための設備投資 を行いつつ、余剰キャッシュの使途について柔軟に検討 していく旨を確認

スパークスと同社経営陣との 直接面談実施の方向で調整中

### 森永製菓(2201)

#### 同社の強み

高利益率の米国事業の更なる 進展と国内菓子事業の収益 性改善への取り組み



**対話段階**:議論進展段階

対話論点: (短中期) ROE改善への施策

(長期) 森永乳業との事業統合

#### これまでの対話状況

スパークスはこれまで何度も太田社長と面談を実施 し、低収益にとどまっている国内菓子事業の在り方 や、資本政策について議論を重ねてきた

長期のROE改善に向けて、組織全体で 事業別の収益性を追求していく姿勢を確認

### 企業との信頼関係を構築しつつ、対話による本質的な議論を展開中

- ※ 上記の画像やイメージ図は、 当ファンドへの理解を深めていただくためのご参考資料です。 全てのケースを網羅したものではなく、将来の結果をお約束するも のではありません。
- ※ 上記はご参考資料であり、特定の有価証券等を推奨しているものではありません。

出所: 会社資料、スパークス・アセット・マネジメント



### お客様向けレポート 2023年10月

### スパークス・ 企業価値創造日本株ファンド



### 三菱重工業(7011)

### 同社の強み

脱炭素需要を取り込み成長する 隠れたカーボンニュートラル貢献企業



**対話段階**:議論進展段階

対話論点:環境問題への取り組みについて理解を促す

IRの充実、ROE改善への施策

#### これまでの対話状況

株式市場の評価とは異なり、脱炭素化が難しい電 力・社会インフラのソリューション変革に強い意思を 持って挑んでいることを確認

同社だからこそ語れる「オンリーワンの 成長戦略」をもっと投資家に打ち出す べきであると強く認識していただく (下記イメージ図参照)

#### スパークスが対話で感じた同社の価値創造の源泉

- ~高砂・広島製作所の見学から~
- ✓ 航空機などの大型構造物から、 材料・金属鋳造のようなミクロレベ ルまで、同社ほど多様な技術・人 材・顧客基盤という無形資産を 備えた企業は希少な存在
- ✓ IR面談や説明会資料だけでは把 握できない「競争力の根源」が 「現場」にある



#### 同社の今後を象徴させる買収

- ✓ 2023年10月、全米No1の顧客網を抱え、保守・点 検サービスを行う米国コンセントリック社の買収を発表
- ✓ 高い製品能力を持つ三菱重工業と連携することで、 データセンターの電源システム、冷却システム、制御・ 監視をワンストップで提供する「トータルエネルギーソ リューション の提供を目指すことが可能となる

### スパークスが対話で示した同社ならではの無形資産イメージ図

葉:製品

枝:事業群



2023年9月面談時、 「コングロマリットの中でシナジー 効果を生み出す|重要性に ついて共感を得られるなど、 本質的対話が進捗中

幹:モノづくりカ

土壌:人的資本 x 製造資本 x 顧客資産

根:知的資産

機械

熱•流体

構造

電気

化学

※ 上記の画像やイメージ図は、 当ファンドへの理解を深めていただくためのご参考資料です。 全てのケースを網羅したものではなく、将来の結果をお約束するも のではありません。

※ 上記はご参考資料であり、特定の有価証券等を推奨しているものではありません。

出所: 会社資料、スパークス・アセット・マネジメント



### スパークス・ 企業価値創造日本株ファンド



スパークス・アセット・マネジメント株式会社

### (2023年10月13日現在)

- 当ファンドが設定されてから約5ヶ月が経過し、2023年10月13日現在、当ファンド基準価額は10,632円、 純資産総額は900億円となっております。
- 現在の当ファンドのポートフォリオが中小型株の比率が多いのは対話による改善余地が高いと考えられる企 業が中小型企業に多いためです。
- 引き続き潜在価値の高い企業への選別投資と、対話による企業価値の顕在化によってもたらされる長期的 なリターンを追求していきます。

### 当ファンドの基準価額と参考指数の推移

(2023年5月12日~2023年10月13日)



### 当ファンド上位5銘柄

(2023年9月29日現在)

#### 銘柄総数:31銘柄

	順位	コード	企業名	業種	保有比率	
	1	7011	三菱重工業	機械	4.7%	
	2	2201	森永製菓	食料品	4.0%	
	3	5344	MARUWA	ガラス・土石製品	4.0%	
	4	7716	ナカニシ	精密機器	3.8%	
	5	7846	パイロットコーポレーション	その他製品	3.7%	

### 時価総額別構成

(2023年9月29日現在)

キャッシュ 5% 大型株 32% 小型株 40% 中型株 23%

### 当ファンドの運用方針

### 潜在価値の高い企業への選別投資と、対話による企業 価値の顕在化により、長期的なリターンを追求

- ※ 基準価額は信託報酬控除後です。
- ※ 保有比率は、当ファンドが投資するマザーファンドの純資産総額に対する比率です。
- ※ 時価総額構成はスパークス・アセット・マネジメントの定義によるものです。日本の上場企業について、株式市場全体に占める時価総額の上位70%以 上を大型株、下位30%~15%を中型株、下位15%以下を小型株と定義しています。
- ※ TOPIX (配当込み) は当ファンドのベンチマークではありません。

出所: スパークス・アセット・マネジメント、FactSet Pacific Inc.



### お客様向けレポート 2023年10月

特化刑

# スパークス・ 企業価値創造日本株ファンド



#### ■基準価額の変動要因

当ファンドは、マザーファンド受益証券への投資等を通じて、国内の株式などの値動きのある有価証券に投資しますので、ファンドの基準価額は変動します。<u>従って、投資者の皆さまの投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者の皆さまに帰属します。また、投資信託は預貯金と異なります。</u> 基準価額の変動要因は、次の通りです。

●株価変動リスク ●集中投資のリスク ●流動性リスク ●信用リスク ●その他の留意事項(システムリスク・市場リスクなどに関する事項) ※基準価額の変動要因(投資リスク)は、上記に限定されるものではありません。

### ■ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用							
購入時手数料	購入申込受付日の基準価額に3.3%(税抜3.0%)を上限として販売会社が定める手数料率を乗じて得た額とします。 ※詳しくは販売会社までお問い合わせください。 購入時手数料は、商品の説明、販売の事務等の対価として販売会社が受け取るものです。						
信託財産留保額	換金申込受付日の基準価額に対して0.3%の率を乗じて得た額をご負担いただきます。						
投資者が信託財産で間接							
運用管理費用 (信託報酬)	日々の信託財産の純資産総額に対して年率1.573% (税抜1.43%) を乗じて得た額とします。 【信託報酬の配分:内訳(税抜)】 委託会社:年率0.70%、販売会社:年率0.70%、受託会社:年率0.03% 運用管理費用(信託報酬)は、ファンドの計算期間を通じて毎日計上され、ファンドの基準価額に反映されます。なお、毎計算期間の最初の6ヶ月終了日および毎計算期末または信託終了の時に、信託財産から支払われます。 運用管理費用(信託報酬)=運用期間中の基準価額×信託報酬率						
実績報酬	計算期間を通じて毎日、原則として前営業日の基準価額がハイ・ウォーター・マーク及び指数値の両方を上回った場合、当該基準価額から当該ハイ・ウォーター・マークまたは当該指数値を控除して得た額のいずれか少ない額に22%(税抜20%)の率を乗じて得た額とします。 ※実績報酬の詳細については交付目論見書をご参照ください。						
監査費用 印刷費用	監査費用、印刷費用などの諸費用は、ファンドの純資産総額に対して年率0.11%(税抜0.10%)を上限とする額がファンドの計算期間を通じて毎日計上され、ファンドの基準価額に反映されます。なお、毎計算期間の最初の6ヶ月終了日および毎計算期末または信託終了の時に、信託財産から支払われます。 ※監査費用:ファンドの監査人に対する報酬および費用 印刷費用:有価証券届出書、目論見書、運用報告書等の作成、印刷および提出等に係る費用						
その他の費用・ 手数料	組入有価証券の売買委託手数料、信託事務の諸費用、マザーファンドの換金に伴う信託財産留保額等は、その都度信託財産から支払われます。これらの費用は運用状況等により変動するため、事前に料率・上限額等を示すことができません。 ※組入有価証券の売買委託手数料:有価証券の売買の際、売買仲介人に支払う手数料信託事務の諸費用:投資信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用および受託会社の立替えた立替金の利息						

※当該手数料等の合計額については、ファンドの購入金額や保有期間等に応じて異なりますので、あらかじめ表示することができません。

### お申込みの際は投資信託説明書(交付目論見書)を必ずご覧ください。

#### <特化型に関して>

当ファンドは、一般社団法人投資信託協会「投資信託等の運用に関する規則 信用リスク集中回避のための投資制限の例外」 を適用して特化型運用を行います。そのため、一般のファンドにおいては、一の者に係るエクスポージャーの投資信託財産の純資 産総額に対する比率として10%を上限として運用を行うところを、当ファンドにおいては、35%を上限として運用を行います。

### お客様向けレポート

2023年10月

# スパークス・ 企業価値創造日本株ファンド



#### ■指数に関して

#### 東証株価指数(TOPIX)

東証株価指数(TOPIX)は、日本の株式市場を広範に網羅するとともに、投資対象としての機能性を有するマーケット・ベンチマークです。 TOPIXは、株式会社 J P X総研又は株式会社 J P X総研の関連会社(以下「J P X 」といいます。)の知的財産であり、 J P X は TOPIXの算出もしくは公表の方法の変更、TOPIXの算出もしくは公表の停止またはTOPIXの商標の変更もしくは使用の停止を行う権利を 有しています。

#### ■ファンドの関係法人について

● 委託会社 スパークス・アセット・マネジメント株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長 (金商) 第346号

(加入協会)一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、日本証券業協会、

一般社団法人第二種金融商品取引業協会

● 受託会社 三井住友信託銀行株式会社

● 販売会社 下記一覧参照

			加入協会			
販売会社	登録番号	日本証券業協会	一般社団法人 金融先物 取引業協会	一般社団法人 日本投資 顧問業協会	一般社団法人 第二種 金融商品 取引業協会	
野村證券株式会社 金融科	品取引業者 関東財務局長(金商)第1	142号 〇	0	0	0	

当資料はお客様向け資料としてスパークス・アセット・マネジメント株式会社が作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。当ファンドの取得のお申込を行う場合には、投資信託説明書(交付目論見書)および目論見書補完書面をお渡ししますので、必ずお受け取りの上詳細をご確認いただき、ご自身でご判断ください。当ファンドは値動きのある有価証券に投資しますので、基準価額は変動します。従って、元本が保証されているものではなく、組入れた有価証券の価格が下落する場合や、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込む場合もあります。また、これらの運用による損益は全て受益者の皆様に帰属します。投資信託は預貯金・金融債または保険商品ではなく、預金保険や保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、証券会社で購入した場合を除き、投資者保護基金の規定に基づく支払いの対象ではありません。当資料の正確性や完全性について当社が保証するものではありません。また記載内容は予告なく訂正が行われることがあります。当資料は目的によらず、当社の許可なしに複製・複写をすることを禁じます。当ファンドに関する投資信託説明書(交付目論見書)のご請求、お問合せは販売会社まで。

〔お問い合わせ先〕スパークス・アセット・マネジメント株式会社

ホームページ https://www.sparx.co.jp/ 電話番号:03-6711-9170(受付時間:営業日9:00~17:00)

